

各位

第三者割当による行使価額修正条項付第11回新株予約権の発行に関するお知らせ

## 1. 募集の概要

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、  
一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

(8) 募集又は割当方法 (割当予定先)	マッコーリー・バンク・リミテッド（以下「割当予定先」といいます。）に対して第三者割当の方法によって割り当てます。
(9) その他	当社は、割当予定先との間で、金融商品取引法に基づく届出の効力発生後に、本新株予約権に係る買取契約（以下「本買取契約」といいます。）を締結する予定です。 本買取契約においては、割当予定先が本新株予約権を譲渡する場合、割当予定先からの譲受人が本買取契約の割当予定先としての権利義務の一切を承継する旨が規定される予定です。

(注) 本新株予約権に係る調達資金の額は、本新株予約権の発行価額の総額に、当初行使価額に基づき全ての本新株予約権が行使されたと仮定して算出した本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の総額を合算した額から、本新株予約権の発行に係る諸費用の概算額（20,000,000円）を差し引いた金額です。行使価額が修正又は調整された場合には、当該調達資金の額は変動いたします。

## 2. 募集の目的及び理由

### (1) 募集の目的

当社は、“「がん」だけを見ることなく、「がん患者」の全体を診ることにより、安心して家族のがん患者に勧められる治療法を提供すること”を企業理念としております。この企業理念の実現のため、当社は、独自の「モジュール創薬」に基づく、抗がん剤の研究開発を行います。モジュール創薬は、既存の抗がん剤等を「モジュール」（構成単位）として利用し、創意工夫（用法用量・結合様式等）を加えて「アセンブリ」（組み立て）することで臨床上的有効性と安全性のバランスを向上させた新規抗がん剤を創製する方法です。当社は、「モジュール創薬」に基づき創製した新規抗がん剤の製造販売承認により、がん患者のQOL（Quality of Life）向上に寄与することを目指しております。当社は、中長期的に新規抗がん剤の研究開発を着実に推進するとともに、提携パートナーを開拓してライセンス契約を締結し、承認を取得して製品販売による安定的な収益源を確保してまいります。

当社の開発パイプラインは、DFP-10917、DFP-10917+ベネトクラクス（注）（以下「VEN」といいます。）、DFP-14323、DFP-14927及びDFP-17729が臨床試験段階にあり、また、DFP-11207及びDFP-10825も次臨床試験に向けた準備を進めております。日本国内や米国、欧州及びアジア等の各地域での提携パートナーとライセンス契約を締結し、それぞれの地域において承認を取得していく予定です。

現在、当社のパイプラインであるDFP-10917+VENの併用は、VENの治療前歴（1回）のある急性骨髄性白血病（AML）の患者を対象に、米国においてDFP-10917とVENとの併用療法の臨床第1/2相試験が許可され、2024年9月に症例登録が開始されました。また、2025年2月に第1相試験の忍容性がデータ評価委員会（DMC）で承認され第2相部分第1段階に移行し、2025年8月に第2段階へ進み、2025年12月には、第2相試験の目標症例登録が完了いたしました。効果判定に必要な一定期間のフォローアップ後、データ評価委員会（DMC）で有効性と安全性を判定し、米国食品医薬品局（FDA）の第2相終了時相談を実施し、臨床第3相試験の準備を開始する予定です。第8回及び第9回新株予約権の調達額未充当残高は2025年9月時点で149百万円となっており、そのため、第2相試験のフォローアップ費用、第3相試験の費用として、2026年1月から2027年3月期までの治験研究費として、現状の資金状況を鑑み資金確保が必要と判断しました。

また、同DFP-10917は、米国において3次療法以降の急性骨髄性白血病患者を対象としたDFP-10917単剤の臨床第3相試験を進めており、本試験に登録された患者のフォローアップ（追跡調査）を終了し、中間解析データの集計と解析作業を終え、データ安全性モニタリング独立委員会（DSMB）へデータを提出し、議論が行われました。その結果、DSMBから治験実施計画書で設定されていた優越性が検証されなかったことから本試験を中止する旨の報告を受け取りました。また、DSMBからは、安全性による中止ではなく、患者の多様性を考慮し、特定のサブグループで有効性の差異を検証する価値があるとの見解も示されたため、今後提示される中間解析の結果と本剤の有効性と安全性を精査し、本剤のAMLにおける単剤での開発の継続の可否を判断する予定であります。今回の報告を受け、本治験に係る費用及び特定のサブグループ解析等の費用の支出予定時期を2026年3月期から2026年9月に変更することとなり、治験研究関連費用等として、主に被験

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

者の治療関連費用、医療施設への追加の研究費、委託会社への追加の治験委託費等が今後約120百万円必要と見込まれました。第10回新株予約権の調達額未充当残高は2025年9月時点で43百万円となっており、現状の資金状況を鑑み追加の資金確保が必要と判断いたしました。

同DFP-14927は、米国において臨床第1相拡大試験（臨床前期第2相試験に相当）を行ってまいりました。臨床第1相拡大試験で末期の大腸がん患者を対象に実施し、病勢コントロールの改善は認められましたが、がんの縮小効果（CR、PR）が認められなかったため、がん組織においてドラッグデリバリーシステム（DDS）のDFP-14927から抗がん活性物質のDFP-10917を放出し易いがんの一種である、末期の膵臓がんの患者を対象に拡大試験を引き続き実施する予定であります。第8回及び第9回新株予約権の調達額未充当残高は2025年9月時点で32百万円となりました。臨床第1相拡大試験の継続に伴う試験研究費及び治験委託費等が必要となり、2027年3月期までの治験研究費として、現状の資金状況を鑑み追加の資金確保が必要と判断しました。

創業ベンチャーである当社にとっては、保有しているパイプラインの研究開発を並行して行っていくために、研究開発体制の強化と研究開発資金の調達が不可欠であります。また、規模の拡大に伴い、内部管理体制の強化を図るなど、人員の採用、知財関連の管理強化を進める方針です。従いまして、当社は、日本の提携先に留まらず、グローバルの製薬会社等とのライセンス契約締結による契約一時金及びマイルストーンによる収入とともに、必要に応じて、投資家からの資金調達を行いながら、研究開発等を推進していく方針です。一方、医薬品の開発期間は基礎研究から上市まで通常10年以上の長期間に及ぶものでもあり、収益に先行して研究開発費が発生している等により、2025年3月期末において8年連続で営業損失及び7年連続でマイナスの営業キャッシュ・フローが発生しております。また、2026年3月期の事業収益については、ライセンス契約上のマイルストーン対価等を目指してまいりますが、現段階では当該収益を見込んでおりません。このような状況を踏まえ、財務の安定を確保しながらも研究開発を実現するために、機動的かつ既存株主の利益に配慮した形で新たな資金調達を行うことが必要と判断し、本新株予約権による資金調達を行うことを決定いたしました。確固たる経営基盤を確立し、事業収益獲得に向けた事業開発活動を推進し、自己資本の改善に向け取り組む方針であり、一層の企業価値向上を図り、ステークホルダーの皆様の利益の最大化に努めてまいります。

今回の資金調達における具体的な資金使途及び支出予定時期につきましては下記「3. 調達する資金の額、使途及び支出予定時期（2）調達する資金の具体的な使途」に記載しております。

なお、第5回乃至第10回新株予約権のファイナンスにおける調達資金の具体的な使途及び支出予定時期の変更並びに未充当の額を表にしたものは以下のとおりです。変更部分には下線を付して表示しています。また、本新株予約権（行使価額：246円）の発行に伴い、その払込期日である2026年2月2日以降、当社の第9回新株予約権の行使価額は725.8円、下限行使価額は242.5円に調整される予定です。詳細は、2026年2月2日付で当社が開示する予定のプレスリリースをご参照ください。

（注）ベネトクラクス（VEN）について

アッヴィ社（AbbVie Inc.：米国・イリノイ州）が、開発した血液がん向けアポトーシス抑制分子BCL-2※阻害剤であります。急性骨髄性白血病（AML）、慢性リンパ性白血病（CLL）で、すでに臨床応用され、特に高齢患者において効果を挙げております。

臨床現場では、アザシチジン＋ベネトクラクス併用療法や低用量シタラビン＋ベネトクラクス併用療法として用いられております。

※ 濾胞性リンパ腫における14番染色体と18番染色体間の染色体転座に関与するタンパク質として2番目に記載されたメンバーであることを意味しております。アポトーシス促進性タンパク質（BAX/BAK、BIMなど）と相互作用することにより、アポトーシス抑制性に機能しております。

<2022年11月 第5回新株予約権 第6回新株予約権発行後、2025年9月末日の変更状況>  
[変更前]（2025年4月14日変更）

具体的な使途	金額（百万円）	支出予定時期
① DFP-10917の臨床第3相試験の研究開発費	600	2022年12月～2024年3月
② DFP-14323の臨床第3相試験の研究開発費	600 (201)	2023年4月～2025年9月

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

③ 開発体制・管理体制の強化（人件費） 及び特許関連費用等（経費）	110	2022 年 12 月～2024 年 3 月
合 計	1,310 (201)	—

[変更後]

具体的な使途	金額（百万円）	支出予定時期
① DFP-10917 の臨床第 3 相試験の研究 開発費	600	2022 年 12 月～2024 年 3 月
② DFP-14323 の臨床第 3 相試験の研究 開発費	600 (0)	2023 年 4 月～2025 年 9 月
③ 開発体制・管理体制の強化（人件費） 及び特許関連費用等（経費）	110	2022 年 12 月～2024 年 3 月
合 計	1,310 (0)	—

- (注) 1. 上記、変更前・変更後の金額は、第 5 回新株予約権の 2023 年 2 月 15 日権利行使完了時の手取額及び第 6 回新株予約権の権利行使全額を記載しております。
2. 上記、変更前の金額欄括弧書きの数値は 2025 年 4 月 14 日時点における未充当額となります。変更後の金額欄括弧書きの数値は 2025 年 9 月末日時点における未充当額となります。

<2023 年 10 月 第三者割当による株式及び第 7 回新株予約権発行後、2025 年 9 月末日の変更状況>

[変更前] (2025 年 4 月 14 日変更)

具体的な使途	金額（百万円）	支出予定時期
① DFP-17729 の臨床第 1 / 2 相試験及び臨床第 2 / 3 相試験の研究開発費	650 (616)	2023 年 11 月～2026 年 11 月
② DFP-11207 の臨床第 2 相試験の研究開発費	180 (178)	2024 年 4 月～2028 年 3 月期
③ DFP-14927 の臨床第 1 相試験及び次臨床試験の研究開発費	150	2023 年 11 月～2025 年 3 月期
④ DFP-10917 の臨床第 3 相試験の研究開発費及び承認申請関連費用	270	2023 年 11 月～2025 年 4 月
⑤ 開発体制・管理体制の強化（報酬・人件費）及び特許関連費用等（経費）	193	2023 年 11 月～2025 年 3 月期
合計	1,443 (793)	—

[変更後]

具体的な使途	金額（百万円）	支出予定時期
① DFP-17729 の臨床第 1 / 2 相試験及び臨床第 2 / 3 相試験の研究開発費	650 (492)	2023 年 11 月～2026 年 11 月
② DFP-11207 の胆道がんに対する医師主導治験の研究開発費	180 (140)	2024 年 4 月～2028 年 3 月期
③ DFP-14927 の臨床第 1 相試験及び次臨床試験の研究開発費	150	2023 年 11 月～2025 年 3 月期
④ DFP-10917 の臨床第 3 相試験の研	270	2023 年 11 月～2025 年 4 月

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

究開発費及び承認申請関連費用		
⑤ 開発体制・管理体制の強化（報酬・人件費）及び特許関連費用等（経費）	193	2023年11月～2025年3月期
合計	1,443 (632)	—

- （注） 1. 上記、変更前・変更後の金額は、第7回新株予約権の2023年11月14日権利行使完了時の手取額を記載しております。
2. 上記、変更前の金額欄括弧書きの数値は2025年4月14日時点における未充当額となります。変更後の金額欄括弧書きの数値は2025年9月末日時点における未充当額となります。

<2024年9月 第三者割当による第8回及び第9回新株予約権発行後、2025年9月末日の変更状況>

[変更前]（2025年4月14日変更）

具体的な使途	金額 (百万円)	支出予定時期
① DFP-10917+VEN 併用の臨床第1/2相試験の研究開発費	500 (330)	2024年10月～2026年3月期
② DFP-10917の臨床第3相試験の研究開発費及び承認申請関連費用	200 (50)	2024年10月～2026年3月期
③ DFP-14927の臨床第1相拡大試験の研究開発費	200 (110)	2024年10月～2026年3月期
④ 開発体制・管理体制の強化（報酬・人件費等）及び特許関連費用等（関連経費）	257 (201)	2024年11月～2026年3月期
合計	1,157 (691)	—

[変更後]

具体的な使途	金額 (百万円)	支出予定時期
① DFP-10917+VEN 併用の臨床第1/2相試験の研究開発費	500 (149)	2024年10月～2026年3月期
② DFP-10917の臨床第3相試験の研究開発費及び承認申請関連費用	200 (0)	2024年10月～2026年3月期
③ DFP-14927の臨床第1相拡大試験の研究開発費	200 (32)	2024年10月～2025年12月
④ 開発体制・管理体制の強化（報酬・人件費等）及び特許関連費用等（関連経費）	214 (0)	2024年11月～2025年12月
合計	1,114 (181)	—

- （注） 1. 上記、変更前の金額欄括弧書きの数値は2025年4月14日時点における未充当額となります。変更後の金額欄括弧書きの数値は2025年9月末日時点における未充当額となります。
2. 上記、変更後の金額の合計欄の数値は、行使が完了している第8回新株予約権の行使により発行した株式の発行価額の総額である約750百万円に、2025年9月末日時点でいまだ未行使の第9回新株予約権が、本新株予約権の払込期日である2026年2月2日以降の行使価額である725.8円で行使されたと仮定して算出した第9回新株予約権の目的となる株式の発行価額の総額である約364百万円を加えた数値です。

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

＜2025 年 4 月 第三者割当による第 10 回新株予約権発行後、2025 年 9 月末日の変更状況＞  
[変更前] (2025 年 4 月 14 日発行決議日)

具体的な使途	金額 (百万円)	支出予定時期
① DFP-14323 の臨床第 3 相試験の研究開発費	650	2025 年 6 月～ <u>2029 年 12 月</u>
② DFP-17729 の臨床第 2 / 3 相試験の研究開発費	250	2026 年 12 月～2029 年 12 月
③ DFP-10917 の臨床第 3 相試験の研究開発費及び承認申請関連費用	<u>100</u>	2025 年 4 月～ <u>2026 年 3 月</u>
④ 開発体制・管理体制の強化（報酬・人件費等）及び特許関連費用等（関連経費）	71	2026 年 1 月～ <u>2027 年 3 月</u>
合計	<u>1,071</u>	—

[変更後]

具体的な使途	金額 (百万円)	支出予定時期
① DFP-14323 の臨床第 3 相試験の研究開発費	650 (609)	2025 年 6 月～ <u>2027 年 6 月</u>
② DFP-17729 の臨床第 2 / 3 相試験の研究開発費	250 (250)	2026 年 12 月～2029 年 12 月
③ DFP-10917 の臨床第 3 相試験の研究開発関連費用	<u>187</u> (43)	2025 年 4 月～ <u>2025 年 12 月</u>
④ 開発体制・管理体制の強化（報酬・人件費等）及び特許関連費用等（関連経費）	71 (71)	2026 年 1 月～ <u>2026 年 9 月</u>
合計	<u>1,157</u> (973)	—

- (注) 1. 上記、変更後の金額は、2025 年 11 月 7 日権利行使完了時の手取額を記載しております。
2. 上記、変更後の金額欄括弧書きの数値は 2025 年 9 月末日時点における未充当額となります。

## (2) 資金調達方法の概要及び選択理由

当社は、資金調達に際し、間接金融による調達の状況及び見通し、当社の財務状況、今後の事業展開等を勘案し、直接金融で調達できる方法を検討してまいりました。当該検討の過程で、下記「(3) 本資金調達の特徴 ＜他の資金調達方法との比較＞」に記載の各項目及び他の手段との比較を行い、また、「(3) 本資金調達の特徴」に記載の「＜メリット＞」及び「＜デメリット＞」を総合的に勘案した結果、割当予定先からの提案である第三者割当による本新株予約権の発行による資金調達を採用することといたしました。

本新株予約権の概要は以下のとおりです。

当社が割当予定先に対して行使期間を 2 年間とする本新株予約権 30,000 個を発行し、割当予定先による本新株予約権の行使に伴って当社資本が増加する仕組みとなっております。

本新株予約権 1 個当たりの目的となる株式の数は 100 株と固定されており、本新株予約権の目的となる株式の総数は 3,000,000 株です。

本新株予約権者はその裁量により本新株予約権を行使することができます。但し、本買取契約の規定により、当社が不行使期間の指定を行うことができますので、当社の裁量により、割当予定先に対して一定数量の範囲での行使を行わせないようにすることが可能となります（不行使期間の指定の詳細は、「(3) 本資金調達の特徴 ＜メリット＞」③をご参照ください。）。

本新株予約権の行使価額は、2026 年 2 月 3 日以降、本新株予約権の行使期間の満了日（2028 年

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

2月2日)まで、各修正日の前取引日の取引所における当社普通株式の普通取引の終値(同日に終値がない場合には、その直前の終値)の92%に相当する金額に修正されます。但し、上記の計算による修正後の行使価額が下限行使価額を下回ることとなる場合には、行使価額は下限行使価額とします。

### (3) 本資金調達の特徴

本資金調達は、当社が割当予定先に対し本新株予約権を割り当て、割当予定先による本新株予約権の行使に伴って当社が資金を調達する仕組みとなっております。

本資金調達は以下の特徴を有しております。

#### <メリット>

##### ① 対象株式数の固定

本新株予約権の対象株式数は、発行当初から本新株予約権の発行要項に示される合計3,000,000株で固定されており、将来的な市場株価の変動によって潜在株式数変動することはありません。なお、株式分割等の一定の事由が生じた場合には、本新株予約権の発行要項に従って調整されることがあります。

##### ② 取得条項

本新株予約権は、当社取締役会の決議に基づき、本新株予約権の払込期日の翌日以降いつでも、15取引日前までに本新株予約権者に通知することによって残存する本新株予約権の全部又は一部を本新株予約権の発行価額相当額で取得することができる設計となっております。これにより、将来的に当社の資金ニーズが後退した場合や資本政策方針が変更になった場合等、本新株予約権を取得することにより、希薄化を防止できるほか、資本政策の柔軟性が確保できます。

##### ③ 不行使期間

本買取契約において、不行使期間が定められる予定です。当社は、本新株予約権の行使期間中、割当予定先が本新株予約権を行使することができない期間(以下「不行使期間」といいます。)を合計4回まで定めることができます。1回の不行使期間は10連続取引日以下とします。当社は割当予定先に対し、当該期間の初日から遡って5取引日前までに書面により不行使期間の通知をすることにより、不行使期間を設定することができます。また、各不行使期間の間は少なくとも5取引日空けることとします。これにより、継続的な当社の株価の上昇が見込まれる場合において当社が不行使期間を設定することや当社の判断で株価への影響を抑えることが可能となります。また、当社は、割当予定先に対して通知することにより、不行使期間を短縮することができます。なお、本新株予約権の発行要項第14項第(1)号又は第(2)号に基づく通知がなされた後取得日までの期間には、不行使期間を定めることはできません。不行使期間については、当社の株価動向等に鑑み定める予定です。当社が割当予定先に対して不行使期間を定める通知又は不行使期間を短縮する通知を行った場合には、適時適切に開示いたします。

##### ④ 譲渡制限

本買取契約において、譲渡制限が定められる予定です。本新株予約権は、割当予定先に対する第三者割当の方法により発行されるものであり、かつ本買取契約において譲渡制限が付される予定であり、割当予定先の関連会社に譲渡される場合を除いて、当社取締役会の事前の承認がない限り、割当予定先から第三者へは譲渡されません。

##### ⑤ 市場売却制限

割当予定先による当社株式の市場売却について、当社は、割当予定先に対して、各暦週での取引所における当社株式の普通取引の取引高の25%を超える水準で、割当予定先が、該当する暦週において取引所における普通取引で当社株式を売却しないよう請求することができます。これにより、割当予定先の当社株式の市場売却による当社株価の過度な下落を抑制することができます。

#### <デメリット>

##### ① 不特定多数の新投資家へのアクセスの限界

第三者割当方式という当社と割当予定先のための契約であるため、不特定多数の新規投資家から資金調達を募るという点において限界があります。

##### ② 株価低迷時に資金調達が当初想定額を大きく下回る可能性

株価が長期的に行使価額の下限を下回る場合では、本新株予約権の行使はされず、資金調達額が当初想定額を大きく下回る可能性があります。

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

また、株価が当初行使価額を下回る状況では資金調達額が当初想定額を下回る可能性があります。

③ 割当予定先が当社普通株式を市場売却することにより当社株価が下落する可能性

割当予定先の当社普通株式に対する保有方針は短期保有目的であることから、割当予定先が本新株予約権を行使して取得した株式を市場売却することを前提としており、現在の当社普通株式の流動性に鑑みると、割当予定先による当社普通株式の売却により当社株価が下落する可能性があります。

④ 買取請求

本買取契約には、割当予定先は、一定の条件を満たした場合、それ以後いつでも、その選択により、当社に対して書面で通知することにより、本新株予約権の全部又は一部を買い取ることが請求することができる旨が定められる予定です。一定の条件とは、以下の事由のいずれかが存在する場合をいいます。

(i) いずれかの取引日において、当該取引日（同日を含む。）を末日とする20連続取引日間の取引所における当社普通株式の普通取引の出来高加重平均価格の単純平均値（但し、当該20連続取引日中に当社普通株式の分割、無償割当て又は併合により株式数が調整される場合には、当該株式数の調整に応じて適宜に調整されるものとする。）が、2026年1月15日の取引所における当社普通株式の普通取引の終値の50%（134円）（但し、本新株予約権の発行要項第11項により行使価額が調整される場合には、当該行使価額の調整に応じて適宜に調整されるものとする。）を下回った場合

(ii) いずれかの取引日において、当該取引日に先立つ20連続取引日間の当社普通株式の1取引日当たりの取引所における普通取引の平均売買代金が、2026年1月15日（同日を含む。）に先立つ20連続取引日間の当社普通株式の1取引日当たりの取引所における普通取引の平均売買代金の50%（177,892,705円）を下回った場合

(iii) 取引所における当社普通株式の取引が5連続取引日以上にわたって停止された場合

割当予定先により買取請求がなされた場合、当社は、当該買取請求に係る書面が到達した日の翌取引日から起算して15取引日目の日（但し、本新株予約権の行使期間の満了日が先に到来する場合は、当該満了日）において、本新株予約権に係る発行価額と同額の金銭と引換えに、当該買取請求に係る新株予約権の全部を買い取ります。割当予定先が当社に対して本新株予約権の買取請求を行った場合には、本新株予約権の行使による資金調達が行われないことにより、資金調達額が当社の想定額を下回る可能性があります。また、本新株予約権の払込金額と同額の金銭の支払いが必要となることにより、本新株予約権による最終的な資金調達額が減少する場合があります。

⑤ エクイティ性証券の発行の制限

本買取契約において、エクイティ性証券の発行の制限が定められる予定です。当社は、本買取契約締結日から、1）本新株予約権の行使期間の満了日、2）当該満了日以前に本新株予約権の全部の行使が完了した場合には、当該行使が完了した日、3）当社が割当予定先の保有する本新株予約権の全部を取得した日、及び4）本買取契約が解約された日のいずれか先に到来する日までの間、当社は、割当予定先の事前の書面による同意がない限り、原則として、株式、新株予約権又はこれらに転換し若しくはこれらを取得する権利が付与された証券を発行してはなりません。詳細については、下記「6. 割当予定先の選定理由等 （6）ロックアップについて」をご参照ください。

⑥ 希薄化

本新株予約権の行使が進んだ場合、3,000,000株の新株式が交付されるため、既存株式の希薄化が生じることになります。

<他の資金調達方法との比較>

当社が本資金調達を選択するに際して検討した他の資金調達方法は以下のとおりです。

① 公募増資

株式の公募増資は、資金調達が当初から実現するものの、同時に1株当たり利益の希薄化を一度に引き起こすため、株価への影響が大きいと考え、今回の資金調達方法としては適切でない判断しました。

② 株主割当増資

株主割当増資では、既存株主持分の希薄化懸念は払拭されますが、調達額が割当先である既

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。



存株主の参加率に左右されることから、当社の資金需要の額に応じた資金調達が困難であるため、今回の資金調達方法としては適切でないと判断いたしました。

### ③ 新株式発行による第三者割当増資

第三者割当による新株式発行は、即時の資金調達の有効な手法となりえますが、公募増資と同様、発行と同時に1株当たり利益の希薄化を一度に引き起こすため、株価に対する直接的な影響が大きいと考え、今回の資金調達手法としては適当でないと判断いたしました。

### ④ MSCB

株価に連動して行使価額が修正される転換社債型新株予約権付社債（いわゆるMSCB）の発行条件及び行使条件は多様化していますが、一般的には、転換により交付される株数が転換価額に応じて決定されるという構造上、転換の完了までに転換により交付される株式総数が確定せず、転換価額の下修正がなされた場合には潜在株式数が増加するため、株価に対する直接的な影響が大きいと考えられることから今回の資金調達方法としては適当でないと判断いたしました。

### ⑤ 新株予約権無償割当による増資（ライツ・オファリング）

いわゆるライツ・オファリングには、金融商品取引業者と元引受契約を締結するコミットメント型ライツ・オファリングと、そのような契約を締結せず、新株予約権の行使が株主の決定に委ねられるノンコミットメント型ライツ・オファリングがありますが、コミットメント型ライツ・オファリングについては、引受手数料等のコストが増大することが予想されます。また、ノンコミットメント型ライツ・オファリングについては、上記②の株主割当増資と同様に、調達額が割当先である既存株主又は市場で新株予約権を取得した者による新株予約権の行使率に左右されることから、当社の資金需要の額に応じた資金調達が確実ではないため、また、ノンコミットメント型ライツ・オファリングについては、現在の当社の利益水準を考慮すると上場要件も満たさないことは明白なため、今回は具体的に検討しないことといたしました。

### ⑥ 社債又は借入れによる資金調達

低金利環境が継続する中、負債調達における調達環境は良好であるものの、社債又は借入れによる資金調達では、調達金額が全額負債として計上されるため、財務健全性が低下する可能性があるところ、当社の事業特性、財務状況及び資金使途も勘案し、資本金調達が最適であるとの結論に至りました。また、今後の事業戦略推進において、機動性の高い有利子負債調達余力を残す観点からも、負債性の資金調達は今回の資金調達方法としては適当でないと判断いたしました。

## 3. 調達する資金の額、使途及び支出予定時期

### (1) 調達する資金の額

払込金額の総額（円）	発行諸費用の概算額（円）	差引手取概算額（円）
739,680,000	20,000,000	719,680,000

- (注) 1. 払込金額の総額は、本新株予約権の発行価額の総額（1,680,000円）及び本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の合計額（738,000,000円）を合算した金額であります。
2. 発行諸費用の概算額には、消費税等は含まれておりません。
3. 払込金額の総額は、全ての本新株予約権が当初行使価額で行使された場合の金額であり、行使価額が修正又は調整された場合には、本新株予約権の払込金額の総額及び差引手取概算額は増加又は減少する可能性があります。また、本新株予約権の行使期間内に行使が行われない場合又は当社が本新株予約権を消却した場合には、払込金額の総額及び差引手取概算額は減少する可能性があります。
4. 発行諸費用の概算額は、弁護士費用、価額算定費用、株式事務手数料等の合計額であります。

### (2) 調達する資金の具体的な使途

当社は、①DFP-10917+VEN併用の臨床第1/2相試験の研究開発費及び第3相試験の研究開発費、②DFP-10917の臨床第3相試験の研究開発関連費用、③DFP-14927の臨床第1相拡大試験の研究開発費、④開発体制・管理体制の強化（報酬・人件費等）及び特許関連費用等（関連経費）を目的として、本新株予約権の発行を決議いたしました。本新株予約権発行による上記差引手取概算額719,680,000円の具体的な使途及び支出予定時期につきましては、以下のとおりです。

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

具体的な使途	金額 (百万円)	支出予定時期
① DFP-10917+VEN 併用の臨床第 1 / 2 相試験の研究開発費及び第 3 相試験の研究開発費	349	2026 年 2 月～2027 年 3 月期
② DFP-10917 の臨床第 3 相試験の研究開発関連費用	120	2026 年 2 月～2026 年 9 月
③ DFP-14927 の臨床第 1 相拡大試験の研究開発費	150	2026 年 2 月～2027 年 3 月期
④ 開発体制・管理体制の強化（報酬・人件費等）及び特許関連費用等（関連経費）	100	2026 年 10 月～2027 年 3 月
合計	719	—

(注) 1. 調達資金は①から④の順に優先的に充当する予定です。

当社は、上記表中に記載のとおり資金を充当することを予定しておりますが、各資金使途についての詳細は以下のとおりです。

- ① DFP-10917+VEN併用の臨床第 1 / 2 相試験の研究開発費及び第 3 相試験の研究開発費  
 DFP-10917+VENの併用は、VENの治療前歴（1 回）のある急性骨髄性白血病（AML）の患者を対象に、米国においてDFP-10917とVENとの併用療法の臨床第 1 / 2 相試験が許可され、2024年 9 月に症例登録が開始されました。また、2025年 2 月に第 1 相試験の忍容性がデータ評価委員会（DMC）で承認され第 2 相部分第 1 段階に移行し、2025年 8 月に第 2 段階へ進み、2025年12月には、第 2 相試験の目標症例登録が完了いたしました。効果判定に必要な一定期間のフォローアップ後、データ評価委員会（DMC）で有効性と安全性を判定し、米国食品医薬品局（FDA）の第 2 相終了時相談を実施し、臨床第 3 相試験の準備を開始する予定です。そのため治験研究費に向けた関連費用等として、主に被験者の治療関連費用、医療施設への追加の研究費、委託会社への追加の治験委託費等を賄うための研究開発費に充当する方針であり、DFP-10917+VENの臨床第 1 / 2 相試験への追加投資及び臨床第 3 相試験への新規投資を行うものです。なお、第 8 回及び第 9 回新株予約権での調達残高を先行して充当してまいります。
- ② DFP-10917の臨床第 3 相試験の研究開発関連費用  
 米国において 3 次療法以降の急性骨髄性白血病患者を対象としたDFP-10917単剤の臨床第 3 相試験を進めており、本試験に登録された患者のフォローアップ（追跡調査）を終了し、中間解析データの集計と解析作業を終え、データ安全性モニタリング独立委員会（DSMB）へデータを提出し、議論が行われました。その結果、DSMBから治験実施計画書で設定されていた優越性が検証されなかったことから本試験を中止する旨の報告を受け取りました。また、DSMBからは、安全性による中止ではなく、患者の多様性を考慮し、特定のサブグループで有効性の差異を検証する価値があるとの見解も示されたため、今後提示される中間解析の結果と本剤の有効性と安全性を精査し、本剤のAMLにおける単剤での開発の継続の可否を判断する予定であります。今回の報告を受け、本治験に係る費用及び特定のサブグループ解析等の費用の支出予定時期を2026年 3 月期から2026年 9 月に変更することとなり、治験研究関連費用等として、主に被験者の治療関連費用、医療施設への追加

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

の研究費、委託会社への追加の治験委託費等を賄うための研究開発費に充当する方針であり、DFP-10917の臨床第3相試験への追加投資を行うものです。なお、第10回新株予約権での調達残高を先行して充当してまいります。

③ DFP-14927の臨床第1相拡大試験の研究開発費

DFP-14927は、米国において臨床第1相拡大試験（臨床前期第2相試験に相当）で末期の大腸がん患者を対象に実施しております。病勢コントロールの改善は認められましたが、がんの縮小効果（CR、PR）が認められなかったため、がん組織においてドラッグデリバリーシステム（DDS）のDFP-14927から抗がん活性物質のDFP-10917を放出し易いがんの一種である、末期の膵臓がんの患者を対象に拡大試験を引き続き実施する予定であります。臨床第1相拡大試験の継続に伴う試験研究費及び治験委託費等を賄うための研究開発費に充当する方針であり、DFP-14927の臨床第1相拡大試験への追加投資を行うものです。

④ 開発体制・管理体制の強化（報酬・人件費等）及び特許関連費用等（関連経費）

当社は、研究開発のマネジメント業務に特化し、委託会社を有効活用することにより、小規模な組織で効率的な運営を行っております。しかしながら、2025年3月期から2025年末までは一部のパイプラインで患者のフォローアップ、中間解析データの集計と解析作業を実施していたため人員の採用を控えており、前回の調達金による開発人員及び管理人員の採用は実施できませんでした。今後、開発品の増加や進展、製造工程等が見込まれるため、現状の研究開発人員7名体制から1名（15百万円程度充当予定）、医薬品の開発・製造・品質管理人員1名（15百万円程度充当予定）をそれぞれ増員するとともに、海外の外部スタッフについても1名程度強化（18百万円程度充当予定）するなど、開発体制の強化を図っていく方針であります。更に内部管理体制の強化を進めることで、経営の健全性、透明性及び効率性が確保された体制の整備を進めることが重要と考えております。今後、製造工程等が見込まれるため、現状の6名体制から国内外のインボイス業務人員など若干名増員（10百万円程度充当予定）し、管理体制の強化を図っていく方針です。また、特許関連費用は、製剤等の保管費用（2百万円程度充当予定）のほか、毎年一定の費用（40百万円程度充当予定）が発生しており、現在、申請している国の特許が許諾された場合、追加で費用が必要となります。従って、当社事業が安定的かつ持続的な発展を果たすことが不可欠であり、今後、事業拡大のための基盤とコーポレート・ガバナンスの強化へ向けた追加投資を行うものです。

2. 当社は本新株予約権により調達した資金を上記の資金使途に充当するまでの間、当該資金は銀行預金にて安定的な資金管理を図る予定であります。
3. 支出予定時期までの期間中に、本新株予約権の行使により十分な資金が調達できなかった場合には、別途、資金調達の検討、調達方法又は調達規模の調整等により対応する予定です。
4. 前回ファイナンスの調達状況及び充当状況  
当社は、2025年4月30日付で、下記表のとおり、第三者割当による行使価額修正条項付第10回新株予約権及び第2回無担保社債（私募債）を発行いたしました。

第三者割当による第10回新株予約権の発行

払込期日	2025年4月30日
発行新株予約権数	24,300個

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

発行価額	総額 2,551,500 円（1 個当たり 105 円）
発行時における調達予定資金の額（差引手取概算額）	1,071,191,500 円
割当先	マッコーリー・バンク・リミテッド
募集時における発行済株式数	9,729,900 株
当該募集による潜在株式数	2,430,000 株（新株予約権 1 個につき 100 株）
現時点における行使状況	2,430,000 株 （残新株予約権数 0 個）
現時点における調達した資金の額（差引手取概算額）	1,157 百万円
発行時における当初の資金用途	① 2025 年 6 月～2029 年 12 月までに DFP-14323 の臨床第 3 相試験の研究開発費（650 百万円） ② 2026 年 12 月～2029 年 12 月までに DFP-17729 の臨床第 2 / 3 相試験の研究開発費（250 百万円） ③ 2025 年 4 月～2026 年 3 月までに DFP-10917 の臨床第 3 相試験の研究開発費及び承認申請関連費用（100 百万円） ④ 2026 年 1 月～2027 年 3 月までに開発体制・管理体制の強化（報酬・人件費等）及び特許関連費用等（関連経費）（71 百万円）
現時点における充当状況（2025 年 9 月末日現在）	① DFP-14323 の臨床第 3 相試験の研究開発費として、2025 年 6 月より 2025 年 9 月時点で 41 百万円充当済みであります。 ② DFP-17729 の臨床第 2 / 3 相試験の研究開発費として、2025 年 9 月時点で全額未充当であります。 ③ DFP-10917 の臨床第 3 相試験の研究開発費として、2025 年 4 月より 2025 年 9 月時点で 144 百万円充当済みであります。 ④ 開発体制・管理体制の強化（報酬・人件費）及び特許関連費用等は 2025 年 9 月時点で全額未充当であります。 なお、残りの 973 百万円については、DFP-14323 の臨床第 3 相試験の研究開発費（上記①）に、DFP-17729 の臨床第 2 / 3 試験の研究開発費（上記②）に、DFP-10917 の臨床第 3 相試験の研究開発費（上記③）に、また、開発体制・管理体制（報酬・人件費）及び特許関連費用等（経費）（上記④）に、随時、充当予定であります。

#### 第 2 回無担保社債（私募債）の発行

社債の総額	金250,000,000円
各社債の金額	金12,500,000円
払込期日	2025年 4 月30日

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

償 還 期 日	2027年4月30日
利 率	年利0.0%（ゼロクーポン）
発 行 価 額	額面100円につき金100円
償 還 価 額	額面100円につき金100円
総 額 引 受 人	マッコーリー・バンク・リミテッド
資 金 使 途	上記第10回新株予約権と同じ
現 時 点 に お け る 充 当 状 況 (2025年9月末日現在)	上記第10回新株予約権と同じ
償 還 状 況	第10回新株予約権の行使による払込代金により、 2025年6月4日を繰上償還日として、第2回無担保社債（私募債）は償還済みです。

#### 4. 資金使途の合理性に関する考え方

上記「2. 募集の目的及び理由（1）募集の目的」のとおり、本資金調達により調達する資金は、今後の当社の企業価値向上に資するものであり、かかる資金使途は合理的なものであると判断しております。従って、本資金調達は、中長期的な当社の企業価値の向上により、既存株主の皆様利益にも資するものと考えております。

#### 5. 発行条件等の合理性

##### （1）払込金額の算定根拠及びその具体的内容

当社は、本新株予約権の発行要項及び本買取契約の諸条件を考慮した本新株予約権の評価を第三者算定機関（株式会社赤坂国際会計、代表者：山本顕三、住所：東京都千代田区紀尾井町4番1号）に依頼しました。当該算定機関は、価格算定に使用する価格算定モデルの決定に当たって、ブラック・ショールズ・モデルや二項モデルといった他の価格算定モデルとの比較及び検討を実施したうえで、本新株予約権の発行要項及び本買取契約の諸条件を相対的に適切に算定結果に反映できる価格算定モデルとして、一般的な価格算定モデルであるモンテカルロ・シミュレーションを適用して算定を実施するものとししました。また、当該算定機関は、評価基準日（2026年1月15日）における当社株式の株価（268円）、ボラティリティ（60.2%）、予想配当額（0円／株）、無リスク利子率（1.2%）等を考慮し、当社及び割当予定先の権利行使行動等に関する一定の前提（取得条項に基づく当社からの通知による取得はなされないこと、当社の資金調達需要が発生している場合には当社による不行使期間の指定が行われないこと、割当予定先による権利行使及び株式売却が当社株式の出来高の一定割合の株数の範囲内で実行されることを含みます。）を置き、評価を実施しています。

当社は、当該算定機関が上記前提条件を基に算定した評価額を参考に、割当予定先との間での協議の上で、発行決議日時点の本新株予約権の1個の払込金額を、当該評価額と同額である金56円としました。なお、本新株予約権の行使価額は、当初、2026年1月15日の取引所における当社普通株式の普通取引の終値の92%に相当する額である246円とし、本新株予約権の行使価額の修正に係るディスカウント率は、当社普通株式の株価動向等を勘案した上で、割当予定先との間での協議を経て8%としました。

本新株予約権の発行価額の決定にあたっては、当該算定機関が公正な評価額に影響を及ぼす可能性のある事象を前提として考慮し、新株予約権の評価額の算定手法として一般的に用いられているモンテカルロ・シミュレーションを用いて公正価値を算定していることから、当該算定機関の算定結果は合理的な公正価格であると考えられ、当該評価額を基準として決定される本新株予約権の払込金額は特に有利な金額には該当せず、適正かつ妥当な価額であると判断いたしました。

また、当社監査役3名（うち社外監査役2名）全員より、会社法上の職責に基づいて監査を行った結果、本新株予約権の発行条件が有利発行に該当しないという取締役会の判断は適法である旨の意見がなされています。

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

(2) 発行数量及び株式の希薄化の規模が合理的であると判断した根拠

全ての本新株予約権が行使された場合に発行される当社の普通株式の数は3,000,000株（当該株式に係る議決権数は30,000個）であり、2025年12月31日現在における当社の発行済株式総数12,159,900株（当該株式に係る議決権数は121,545個）（注）を分母とする希薄化率は24.67%（議決権数に係る希薄化率は24.68%）となります。また、全ての本新株予約権が行使された場合に発行される当社の普通株式の数3,000,000株に対し、当社過去6か月間（2025年7月から2025年12月まで）における1日当たり平均出来高は504,055株となっております。従って、市場で売却することによる流通市場への影響は、行使期間である2年間（年間取引日数：245日で計算）で行使して希薄化規模が最大になった場合、1日当たりの売却数量は6,122株（過去6か月間における1日当たりの平均出来高の1.21%）となることから、当社株式は、本新株予約権の目的である株式の総数を勘案しても一定の流動性を有していると判断しており、本新株予約権の行使により発行された当社株式の売却は当社株式の流動性によって吸収可能であると判断しております。

また、本資金調達には当社及び当社の既存株主の皆様にとっても、本新株予約権について当社が不行使期間を指定できることから新株予約権の行使のタイミングについてある程度のコントロールが可能であり、急激な発行株式数の増加を防止し得る点では一定の優位性があり、この資金調達により当社の成長戦略を後押し、結果的に企業価値の向上に寄与することから、既存株主の皆様利益にも資するものと考えております。当社といたしましては、本資金調達において発行される本新株予約権の内容及び数量は、当社の企業価値及び株式価値の向上を図るために必要なものであると考えております。

なお、本新株予約権には、当社の判断により、残存する新株予約権を取得できる旨の取得事由が定められているため、将来何らかの事由により資金調達の必要性が低下した場合又は本新株予約権より有利な資金調達方法が利用可能となった場合に、必要以上の発行株式数の増加が進行しないように配慮されております。

以上の点を勘案し、本新株予約権の発行数量及び株式の希薄化の規模は、合理的であると考えております。

(注) 2025年12月31日時点の発行済株式総数及び議決権数は、2025年9月30日現在の発行済株式総数11,525,000株及び議決権数115,196個に第10回新株予約権の権利行使に伴う普通株式増加数634,900株及び当該普通株式増加に係る議決権数6,349個を加えた数字であります。

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

6. 割当予定先の選定理由等

(1) 割当予定先の概要

(1)	名 称	マッコーリー・バンク・リミテッド (Macquarie Bank Limited)		
(2)	所 在 地	Level 1, 1 Elizabeth Street, Sydney NSW 2000, Australia		
(3)	代表者の役職・氏名	会長 G. R. スティーブン AC (G.R. Stevens AC) CEO S. グリーン (S. Green)		
(4)	事 業 内 容	商業銀行		
(5)	資 本 金	10,192 百万豪ドル (連結) (957,742 百万円/2025 年 3 月 31 日現在)		
(6)	設 立 年 月 日	1983 年 4 月 26 日		
(7)	発 行 済 株 式 数	普通株式 696,603,664 株 (2025 年 3 月 31 日現在)		
(8)	決 算 期	3 月 31 日		
(9)	従 業 員 数	15,409 人 (2025 年 3 月 31 日現在)		
(10)	主 要 取 引 先	個人及び法人		
(11)	主 要 取 引 銀 行	—		
(12)	大 株 主 及 び 持 株 比 率	Macquarie B.H. Pty Ltd. 100%		
(13)	当 事 会 社 間 の 関 係			
	資 本 関 係	当社は当該会社に 2022 年 12 月 5 日に第 5 回及び第 6 回 新株予約権、2023 年 11 月 10 日に第 7 回新株予約権、 2024 年 10 月 7 日に第 8 回及び第 9 回新株予約権、2025 年 4 月 30 日に第 10 回新株予約権をそれぞれ発行してお ります。上記新株予約権のうち、第 5 回乃至第 8 回及び 第 10 回新株予約権は全て行使済みであり、第 9 回新株予 約権は 0 個が行使済みです。また、当該会社は 2025 年 12 月 31 日現在、当社の株式 213,100 株を保有しておりま す。その他、当社と当該会社との間には、記載すべき資 本関係はありません。また、当社の関係者及び関係会社 と当該会社の関係者及び関係会社との間には、特筆すべ き資本関係はありません。		
	人 的 関 係	当社と当該会社との間には、記載すべき人的関係はあり ません。また、当社の関係者及び関係会社と当該会社の 関係者及び関係会社との間には、特筆すべき人的関係は ありません。		
	取 引 関 係	当社と当該会社との間には、記載すべき取引関係はあり ません。また、当社の関係者及び関係会社と当該会社の 関係者及び関係会社との間には、特筆すべき取引関係は ありません。		
	関 連 当 事 者 へ の 該 当 状 況	当該会社は、当社の関連当事者には該当しません。ま た、当該会社の関係者及び関係会社は、当社の関連当事 者には該当しません。		
(14)	最近 3 年間の経営成績及び財政状態			
	決算期	2023 年 3 月期	2024 年 3 月期	2025 年 3 月期
	連 結 純 資 産	1,825,371 百万円	2,108,380 百万円	2,160,088 百万円
	連 結 総 資 産	29,671,515 百万円	33,543,473 百万円	35,259,517 百万円
	1 株当たり連結純資産 (円)	2,620.39	3,026.66	3,100.89
	連 結 純 収 益	1,147,225 百万円	1,140,523 百万円	1,120,122 百万円

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、  
一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

連 結 営 業 利 益	485,313 百万円	401,836 百万円	417,321 百万円
連 結 当 期 利 益	350,239 百万円	287,152 百万円	323,727 百万円
1 株当たり連結当期利益 (円)	510.77	412.22	464.72
1 株 当 たり 配 当 金 (円)	353.94	294.30	300.01

(注) 上記の「最近3年間の経営成績及び財政状態」に記載の金額は、便宜上、2023年3月期は、2023年3月31日現在の外国為替相場の仲値である1豪ドル=89.69円、2024年3月期は、2024年3月29日現在の外国為替相場の仲値である1豪ドル=98.61円、2025年3月期は、2025年3月31日現在の外国為替相場の仲値である1豪ドル=93.97円に換算し記載しております。

## (2) 割当予定先を選定した理由

当社は、研究開発型ビジネスモデルの創薬ベンチャー企業であるため、常に研究開発費用が先行することとなり、間接金融からの調達のみならず、直接金融からの調達も含め、資金調達方法を模索しております。現在、進めている各研究開発パイプラインに係る治験費用と現状の資金状況に鑑み追加の資金確保について2025年9月頃から検討していたところ、第9回新株予約権及び第10回新株予約権の発行に伴って割当予定先と締結した買取契約内の優先交渉条項を踏まえて、2025年10月に、割当予定先の斡旋を行うマッコーリーキャピタル証券会社（所在地：東京都千代田区紀尾井町1番3号、代表者：渡邊 琢二）へ資金調達の打診を行い、資金調達の提案を受けました。割当予定先にはこれまでに6回にわたり新株予約権を割当てており、これまでの実績を考慮した結果、マッコーリーキャピタル証券会社及び割当予定先からの資金調達のストラクチャー・基本条件の提案、その後の面談の過程で設計されたスキームが、当社の資金調達ニーズを満たすものであると判断し、最終的な割当予定先の選定に至りました。また、当社は、割当予定先のこれまでのグローバルな活動実績や保有方針等を総合的に勘案し、本新株予約権の第三者割当の割当予定先として適切と判断いたしました。

(注) マッコーリー・バンク・リミテッドに対する本新株予約権の発行は、日本証券業協会会員であるマッコーリーキャピタル証券会社の斡旋を受けて行われるものであり、日本証券業協会の定める「第三者割当増資等の取扱いに関する規則」の適用を受けて募集が行われるものです。

## (3) 割当予定先の保有方針及び行使制限措置

当社と割当予定先の担当者との協議において、割当予定先の保有方針は純投資であり、本新株予約権の行使により取得する当社普通株式については、適宜判断の上、比較的短期で売却を目指すものの、運用に際しては市場の影響に常に留意する方針であることを口頭にて確認しております。

なお、本新株予約権について、当社と割当予定先との間で、金融商品取引法に基づく届出の効力発生後、本買取契約を締結する予定です。

また、本買取契約において、当社と割当予定先は、本新株予約権について、取引所の定める有価証券上場規程第434条第1項及び同施行規則第436条第1項から第5項までの定め、並びに日本証券業協会の定める「第三者割当増資等の取扱いに関する規則」第13条の定めに基づき、原則として、単一暦月中に割当予定先が本新株予約権又は第9回新株予約権を行使することにより取得される株式数の合計が、第9回新株予約権の払込日時点における上場株式数の10%を超える部分に係る行使（以下「制限超過行使」といいます。）を制限するよう措置を講じる予定です。

具体的には、以下の内容を本買取契約で締結する予定です。

- ① 割当予定先が制限超過行使を行わないこと
- ② 割当予定先が本新株予約権を行使する場合、あらかじめ、当社に対し、本新株予約権の行使が制限超過行使に該当しないかについて確認を行うこと
- ③ 割当予定先が本新株予約権を転売する場合には、あらかじめ、転売先となる者に対し、当社との間で前記①及び②に定める事項と同様の内容を約させること

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。



- ④ 割当予定先は、転売先となる者がさらに第三者に転売する場合も、あらかじめ当該第三者に対し当社との間で前記①及び②に定める事項と同様の内容を約させること
- ⑤ 当社は割当予定先による制限超過行使を行わせないこと
- ⑥ 当社は、割当予定先からの転売先となる者（転売先となる者から転売を受ける第三者を含みます。）との間で、当社と割当予定先が合意する制限超過行使の制限と同様の合意を行うこと

(4) 割当予定先の払込みに要する財産の存在について確認した内容

当社は、割当予定先の 2026 年 3 月期の半期レポート（豪州の平成 13 年（2001 年）会社法（英名：Corporations Act 2001）に基づく資料）により、2025 年 9 月 30 日現在の割当予定先における連結ベースでの現金及び現金同等物が 50,570 百万豪ドル（円換算額：4,950,297 百万円）、参照為替レート：97.89 円（株式会社三菱 UFJ 銀行 2025 年 9 月 30 日時点仲値）であることを確認しており、本新株予約権の払込み及び行使に必要かつ十分な資金を有していると認められることから、当該払込み及び行使に支障はないと判断しております。なお、2025 年 10 月 1 日以降、割当予定先において、その財務状況に大きな変更がないことを口頭にて確認しております。

(5) 株券貸借に関する契約

第 8 回乃至第 10 回新株予約権の発行に伴い、割当予定先は、当社代表取締役社長である江島清より当社普通株式について借株（貸借株数上限：150,000 株）を行っており、本新株予約権の発行に伴って当該借株の貸借期間について本新株予約権の行使期間に応じた変更を行う予定です。割当予定先が本新株予約権の行使により取得する当社普通株式の数量の範囲内で行う売付け以外を目的として、当社普通株式の借株は行いません。

(6) ロックアップについて

本買取契約において、以下の内容が合意される予定です。

本買取契約の締結日から、①本新株予約権の行使期間の満了日、②当該満了日以前に本新株予約権の全部の行使が完了した場合には、当該行使が完了した日、③当社が割当予定先の保有する本新株予約権の全部を取得した日、及び④本買取契約が解約された日のいずれか先に到来する日までの間、当社は、割当予定先の事前の書面による同意がない限り、株式、新株予約権又はこれらに転換し若しくはこれらを取得する権利が付与された証券を発行してはならない。

但し、①本新株予約権の発行及び本新株予約権又は第 9 回新株予約権の行使による当社の株式の交付、②株式分割又は株式無償割当てに伴う当社の株式の交付、③吸収分割、株式交換、株式交付及び合併に伴う当社の株式の交付、④当社の役員及び従業員を対象とするストック・オプション及び譲渡制限付株式を発行する場合（当該ストック・オプションの行使により株式を発行する場合を含む。）、及び⑤当社が他の事業会社との間で行う業務上の提携（既存の提携に限らず、新規又は潜在的な提携を含む。）の一環として又はこれに関連して当該他の事業会社に対してこれらの証券を発行する場合（当該事業会社が金融会社若しくは貸金業者でなく、また、当社に対する金融を提供することを主たる目的として業務上の提携を行うものでもない場合に限る。以下「許容発行事由」という。）を除く。

(7) 割当予定先の実態

割当予定先であるマッコーリー・バンク・リミテッドは、マッコーリー・ビーエイチ・ピーティエーワイ・リミテッドの 100%子会社であり、マッコーリー・ビーエイチ・ピーティエーワイ・リミテッドは、オーストラリア証券取引所（ASX）に上場し、オーストラリアの銀行規制機関であるオーストラリア健全性規制庁 APRA（Australian Prudential Regulation Authority）の監督及び規制を受けておりますマッコーリー・グループ・リミテッドの 100%子会社であります。日本においては、割当予定先の関連会社であるマッコーリーキャピタル証券会社が第一種金融商品取引業の登録を受け、金融庁の監督及び規制を受けております。以上のような、割当予定先の属するグループが諸外国の監督及び規制のもとにある事実について、当社は割当予定先の担当者との面談によるヒアリング及び APRA ホームページ、割当予定先のアニュアルレポート等で確認しております。また、割当予定先、当該割当予定先の

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

役員及び主要株主が反社会的勢力とは一切関係がないことについて、割当予定先からその旨を証する書面を受領し確認しております。以上から、割当予定先並びにその役員及び主要株主が反社会的勢力とは関係がないものと判断しており、その旨の確認書を取引所に提出しております。

(8) 優先交渉権について

本買取契約において、以下の内容が合意される予定です。

本買取契約において、当社は、本契約締結日から、本新株予約権の行使期間の満了日、割当予定先が本新株予約権の行使を完了した日、当社が本新株予約権の全てを取得した日又は本契約が解約された日のいずれか早く到来する日から3ヶ月後までの間に、当社株式の交付と引き換えに当社に取得される証券(権利)若しくは当社に取得させることができる証券(権利)、又は当社株式の交付を当社に請求できる新株予約権の交付と引き換えに当社に取得される証券(権利)若しくは当社に取得させることができる証券(権利)、当社株式、又は当社株式の交付を請求できる新株予約権を、当社が第三者に発行(当社の株式の発行に関しては自己株式の処分を含む。)しようとする場合(但し、許容発行事由に基づく発行を除く。)、当社は、当該第三者に対する発行に合意する前に、割当予定先に対して、同条件にてその予定する発行額の全部又は一部について、引受け又は購入する意図があるかどうか、又は同等以上の条件を提案する意向があるかを確認する旨の通知を送付するものとする。当社が当該通知をしてから15営業日以内に割当予定先が当該証券若しくは権利について、引受け若しくは購入する、又は同目的を実質的に達成するような提案を行うと決定した旨を当社に通知した場合、当社は割当予定先に当該証券若しくは権利を発行若しくは交付する、又は当該提案に同意するものとする。

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

## 7. 大株主及び持株比率

割当前（2025年9月30日現在）	
楽天証券株式会社	6.32%
江島 清	5.92%
日本ケミファ株式会社	3.73%
MACQUARIE BANK LIMITED DBU AC （常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店）	2.95%
株式会社SBI証券	2.60%
宮崎 羅貴	2.26%
三洋化成工業株式会社	1.30%
江平 文茂	1.30%
野村證券株式会社 （常任代理人 株式会社三井住友銀行）	0.87%
白川 貴教	0.87%

- （注）
1. 持株比率は2025年9月30日現在の株主名簿上の株式数によって算出しております。
  2. 上記の割合は、小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。
  3. 割当予定先による本新株予約権の保有目的は純投資であり、割当予定先は、取得した当社普通株式を売却する可能性があるとのことです。なお、独占禁止法第11条にて、銀行業を営む会社は、原則他の事業会社（保険会社を除きます。）の発行済株式数の5%を超えて保有することはできない旨定められておりますので、割当予定先は、原則として当社発行済株式数の5%を超えて保有することはできず、よって、原則として割当予定先が一度の行使請求によって当社発行済株式数の5%を超える株式を取得することはありません。

## 8. 今後の見通し

当社は、本資金調達で当社の中長期的な企業価値及び株主価値の向上に資するものと考えておりますが、これによる2026年3月期の業績に与える影響は軽微です。なお、別途開示すべき事項が発生した場合には速やかにお知らせいたします。

## 9. 企業行動規範上の手続きに関する事項

今般の資金調達は、希薄化率が25%未満であること、支配株主の異動を伴うものではないこと、本新株予約権が全て行使された場合であっても、支配株主の異動が見込まれるものではないことから、取引所の定める有価証券上場規程第432条「第三者割当にかかる企業行動規範上の遵守事項」に定める独立第三者からの意見入手及び株主の意思確認手続きは要しません。

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

# 10. 最近3年間の業績及びエクイティ・ファイナンスの状況

最近3年間の業績（単体）（単位：千円。特記しているものを除きます。）

決算期	2023年3月	2024年3月	2025年3月
事業収益	-	-	-
営業損失（△）	△1,315,810	△1,403,464	△1,708,224
経常損失（△）	△1,325,760	△1,426,891	△1,718,662
当期純損失（△）	△1,328,788	△1,429,393	△1,721,164
1株当たり当期純損失（△）（円）	△234.51	△198.78	△195.58
1株当たり配当額（円）	-	-	-
1株当たり純資産額（円）	123.91	149.69	28.36

## （1）現時点における発行済株式数及び潜在株式数の状況（2025年12月31日現在）

	株式数	発行済株式数に対する比率
発行済株式数	12,159,900株	100.00%
現時点の行使価額における潜在株式数	575,000株	4.73%
下限値の行使価額における潜在株式数	-	-
上限値の行使価額における潜在株式数	-	-

（注） 上記潜在株式数は、第9回新株予約権及びストック・オプションとして発行した新株予約権によるものであります。

## （2）最近の株価の状況

### ① 最近3年間の状況

	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
始値	1,275円	1,330円	850円
高値	1,510円	1,825円	856円
安値	749円	762円	445円
終値	1,030円	842円	575円

（注） 各株価は、東京証券取引所グロース市場におけるものであります。

### ② 最近6か月間の状況

	2025年 8月	9月	10月	11月	12月	2026年 1月
始値	672円	571円	531円	424円	571円	510円
高値	722円	611円	557円	580円	700円	566円
安値	563円	511円	415円	404円	476円	257円
終値	577円	536円	421円	571円	510円	268円

（注） 1. 各株価は、東京証券取引所グロース市場におけるものであります。  
2. 2026年1月の状況につきましては、2026年1月15日現在で表示しております。

### ③ 発行決議日前営業日における株価

	2026年1月15日
始値	275円
高値	279円
安値	257円
終値	268円

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

(3) 最近3年間のエクイティ・ファイナンスの状況  
・第三者割当増資による第7回新株予約権の発行

払 込 期 日	2023年11月10日
発行新株予約権数	10,800個
発行価額	総額 3,715,200 円 (第7回新株予約権1個当たり 344 円)
発行時における 調達予定資金の額 (差引手取概算額)	810,475,200 円 (差引手取概算額: 800,775,200 円) (内訳) 新株予約権発行による調達額: 3,715,200 円 新株予約権行使による調達額: 806,760,000 円
行使期間	2023年11月13日から2025年11月12日まで
割 当 先	マッコーリー・バンク・リミテッド
募集時における発行済 株 式 数	6,544,600 株
当該募集による 潜 在 株 式 数	1,080,000 株 (新株予約権1個につき100株)
現時点における 行 使 状 況	第7回新株予約権 1,080,000 株 (残新株予約権数0個)
現時点における 調達した資金の額	947 百万円
変更後の資金使途	① 2023年11月～2026年11月までに DFP-17729 の臨床第1/2相試験及び次臨床試験の研究開発費 (650 百万円) ② 2024年4月～2028年3月期までに DFP-11207 の胆道がんに対する医師主導治験の研究開発費 (180 百万円) ③ 2023年11月～2025年3月期までに DFP-14927 の臨床第1相試験及び次臨床試験の研究開発費 (150 百万円) ④ 2023年11月～2025年4月までに DFP-10917 の臨床第3相試験の研究開発費及び承認申請関連費用 (270 百万円) ⑤ 2023年11月～2025年3月期までに開発体制・管理体制の強化 (報酬・人件費) 及び特許関連費用等 (経費) (193 百万円)
現時点における 充 当 状 況 (2025年9月末日現在)	DFP-17729 の臨床第1/2相試験及び次臨床試験の研究開発費 (上記①) として、2023年11月より2025年9月時点で158百万円充当済みであります。 DFP-11207 の臨床第2相試験の研究開発費 (DFP-11207 の薬剤管理費等) として、2023年11月より2025年9月時点で40百万円充当済みであります。 DFP-14927 の臨床第1相試験及び次臨床試験の研究開発費 (上記③) として、2023年11月より2024年10月時点で全て充当済みであります。 DFP-10917 の臨床第3相試験の研究開発費 (上記④) として、2023年11月より2024年10月時点で全て充当済みであります。 また、開発体制・管理体制の強化 (人件費) 及び特許関連費用等 (上記⑤) は2023年11月より2024年6月時点で全て充当済みであります。 なお、残りの632百万円については、DFP-17729 の次臨床試験の研究開発費 (上記①) に、DFP-11207 の胆道がんに対する医師主導治験の研究開発費 (上記②) に、随時、充当予定であります。

・第三者割当増資による株式の発行

払 込 期 日	2023年11月10日
発行新株式数	430,300 株

ご注意: この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

発行価額	1株につき1,162円
資金調達の額 (差引手取概算額)	495,908,600円
資本組入額の総額	250,004,300円
割当先	日本ケミファ株式会社
資金使途	上記第7回新株予約権と同じ
現時点における 充当状況 (2025年9月末日現在)	上記第7回新株予約権と同じ

・第三者割当増資による第8回新株予約権及び第9回新株予約権の発行

払込期日	2024年10月7日
発行新株予約権数	20,000個 第8回新株予約権 15,000個 第9回新株予約権 5,000個
発行価額	総額2,450,000円(第8回新株予約権1個当たり86円、第9回新株予約権1個当たり232円)
発行時における 調達予定資金の額 (差引手取概算額)	1,217,950,000円(差引手取概算額:1,202,550,000円) (内訳)新株予約権発行による調達額:2,450,000円 新株予約権行使による調達額:1,215,500,000円
割当先	マッコーリー・バンク・リミテッド
募集時における発行済 株式数	8,229,900株
当該募集による 潜在株式数	2,000,000株(新株予約権1個につき100株) 第8回新株予約権 1,500,000株 第9回新株予約権 500,000株
現時点における 行使状況	第8回新株予約権 1,500,000株 (残新株予約権数0個) 第9回新株予約権0株 (残新株予約権数5,000個) ※なお、第9回新株予約権については、いまだ行使がなされていないものの、同新株予約権の行使期間末日(2026年10月7日)までには一定の余裕があるため、当社普通株式の株価上昇時に行使がなされる可能性があることや、当該新株予約権については当社取締役会決議により行使価額の修正をする可能性もあることを踏まえ、同新株予約権の取得及び消却は行っておりません。
現時点における 調達した資金の額 (差引手取概算額)	750百万円
変更後の資金使途	① 2024年10月～2026年3月期までにDFP-10917+VEN併用の臨床第1/2相試験の研究開発費(500百万円) ② 2024年10月～2026年3月期までにDFP-10917の臨床第3相試験の研究開発費及び承認申請関連費用(200百万円) ③ 2024年10月～2025年12月までにDFP-14927の臨床第1相拡大試験の研究開発費(200百万円) ④ 2024年11月～2025年12月までに開発体制・管理体制の強化(報酬・人件費等)及び特許関連費用等(関連経費)(214百万円)

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

現時点における 充 当 状 況 (2025 年 9 月末日現在)	<p>DFP-10917+VEN 併用の臨床第 1 / 2 相試験の研究開発費（上記①）として、2024 年 10 月より 2025 年 9 月時点で 351 百万円充当済みであります。</p> <p>DFP-10917 の臨床第 3 相試験の研究開発費（上記②）として、2024 年 10 月より 2025 年 2 月時点で 200 百万円充当済みであります。</p> <p>DFP-14927 の臨床第 1 相拡大試験の研究開発費（上記③）として、2024 年 10 月より 2025 年 9 月時点で 168 百万円充当済みであります。</p> <p>また、開発体制・管理体制の強化（報酬・人件費）及び特許関連費用等（上記④）は 2024 年 11 月より 2025 年 9 月時点で全額充当済みであります。</p> <p>なお、残りの 181 百万円については、DFP-10917+VEN 臨床第 1 / 2 試験の研究開発費（上記①）に、また、DFP-14927 の臨床第 1 相拡大試験の研究開発費（上記③）に、随時、充当しております。</p>
--	--

・第三者割当増資による第 10 回新株予約権の発行

払 込 期 日	2025 年 4 月 30 日
発行新株予約権数	24,300 個
発 行 価 額	総額 2,551,500 円（第 10 回新株予約権 1 個当たり 105 円）
発行時における 調達予定資金の額 （差引手取概算額）	1,091,191,500 円（差引手取概算額：1,071,191,500 円） （内訳）新株予約権発行による調達額：2,551,500 円 新株予約権行使による調達額：1,088,640,000 円
行 使 期 間	2025 年 5 月 1 日から 2027 年 4 月 30 日まで
割 当 先	マッコーリー・バンク・リミテッド
募集時における発行済 株 式 数	9,729,900 株
当 該 募 集 に よ る 潜 在 株 式 数	2,430,000 株（新株予約権 1 個につき 100 株）
現時点における 行 使 状 況	第 10 回新株予約権 2,430,000 株 （残新株予約権数 0 個）
現時点における 調 達 し た 資 金 の 額	1,157 百万円
変 更 後 の 資 金 使 途	<p>① 2025 年 6 月～2027 年 6 月までに DFP-14323 の臨床第 3 相試験の研究開発費（650 百万円）</p> <p>② 2026 年 12 月～2029 年 12 月までに DFP-17729 の臨床第 2 / 3 相試験の研究開発費（250 百万円）</p> <p>③ 2025 年 4 月～2025 年 12 月までに DFP-10917 の臨床第 3 相試験の研究開発関連費用（187 百万円）</p> <p>④ 2026 年 1 月～2026 年 9 月までに開発体制・管理体制の強化（報酬・人件費等）及び特許関連費用等（関連経費）（71 百万円）</p>
現時点における 充 当 状 況 (2025 年 9 月末日現在)	<p>DFP-14323 の臨床第 3 相試験の研究開発費（上記①）として、2025 年 6 月より 2025 年 9 月時点で 41 百万円充当済みであります。</p> <p>DFP-17729 の臨床第 2 / 3 相試験の研究開発費（上記②）として、2025 年 9 月時点で全額未充当であります。</p> <p>DFP-10917 の臨床第 3 相試験の研究開発費（上記③）として、2025 年 4 月より 2025 年 9 月時点で 144 百万円充当済みであります。</p> <p>また、開発体制・管理体制の強化（報酬・人件費）及び特許関連費用等（上記④）は、2025 年 9 月時点で全額未充当であります。</p> <p>なお、残りの 973 百万円については、DFP-14323 臨床第 3 試験の研究開発費（上記①）に、DFP-17729 の臨床第 2 / 3 相試験の研究開発費（上記②）に、DFP-10917 臨床第 3 相試験の研究開発費（上記③）に、</p>

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

	また、開発体制・管理体制（報酬・人件費）及び特許関連費用等（経費）（上記④）に、随時、充当予定であります。
--	---

・第2回無担保社債（私募債）の発行

社 債 の 総 額	金 250,000,000 円
各 社 債 の 金 額	金 12,500,000 円
払 込 期 日	2025 年 4 月 30 日
償 還 期 日	2027 年 4 月 30 日
利 率	年利 0.0%（ゼロクーポン）
発 行 価 額	額面 100 円につき金 100 円
償 還 価 額	額面 100 円につき金 100 円
総 額 引 受 人	マッコーリー・バンク・リミテッド
資 金 使 途	上記第 10 回新株予約権と同じ
現 時 点 に お け る 充 当 状 況 (2025 年 9 月 末 日 現 在)	上記第 10 回新株予約権と同じ
償 還 状 況	第 10 回新株予約権の行使による払込代金により、2025 年 6 月 4 日を繰上償還日として、第 2 回無担保社債（私募債）は償還済みです。

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。



## Delta-Fly Pharma 株式会社第 11 回新株予約権

### 発行要項

#### 1. 本新株予約権の名称

Delta-Fly Pharma 株式会社第 11 回新株予約権（以下「**本新株予約権**」という。）

#### 2. 申込期間

2026 年 2 月 2 日

#### 3. 割当日

2026 年 2 月 2 日

#### 4. 払込期日

2026 年 2 月 2 日

#### 5. 募集の方法

第三者割当の方法により、全ての本新株予約権をマッコーリー・バンク・リミテッドに割り当てる。

#### 6. 本新株予約権の目的である株式の種類及び数

(1) 本新株予約権の目的である株式の種類及び総数は、当社普通株式 3,000,000 株（本新株予約権 1 個当たりの目的である株式の数（以下「**割当株式数**」という。）は 100 株）とする。但し、本項第(2)号乃至第(5)号により割当株式数が調整される場合には、本新株予約権の目的である株式の総数は調整後割当株式数に応じて調整される。

(2) 当社が当社普通株式の分割、無償割当て又は併合（以下「**株式分割等**」と総称する。）を行う場合には、割当株式数は次の算式により調整される。但し、調整の結果生じる 1 株未満の端数は切り捨てる。

調整後割当株式数＝調整前割当株式数×株式分割等の比率

(3) 当社が第 11 項の規定に従って行使価額（以下に定義する。）の調整を行う場合（但し、株式分割等を原因とする場合を除く。）には、割当株式数は次の算式により調整される。但し、調整の結果生じる 1 株未満の端数は切り捨てる。なお、かかる算式における調整前行使価額及び調整後行使価額は、第 11 項に定める調整前行使価額及び調整後行使価額とする。

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

$$\text{調整後割当株式数} = \frac{\text{調整前割当株式数} \times \text{調整前行使価額}}{\text{調整後行使価額}}$$

(4) 本項に基づく調整において、調整後割当株式数の適用開始日は、当該調整事由に係る第 11 項第(2)号、第(3)号及び第(6)号による行使価額の調整に関し、各号に定める調整後行使価額を適用する日と同日とする。

(5) 割当株式数の調整を行うときは、当社は、調整後割当株式数の適用開始日の前日までに、本新株予約権に係る新株予約権者（以下「**本新株予約権者**」という。）に対し、かかる調整を行う旨及びその事由、調整前割当株式数、調整後割当株式数並びにその適用開始日その他必要な事項を書面で通知する。但し、第 11 項第(2)号⑤に定める場合その他適用開始日の前日までに上記通知を行うことができない場合には、適用開始日以降速やかにこれを行う。

## 7. 本新株予約権の総数

30,000 個

## 8. 各本新株予約権の払込金額

新株予約権 1 個当たり金 56 円

## 9. 本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額又は算定方法

(1) 各本新株予約権の行使に際して出資される財産は金銭とし、その価額は、行使価額に割当株式数を乗じた額とする。

(2) 本新株予約権の行使に際して出資される当社普通株式 1 株当たりの金銭の額（以下「**行使価額**」という。）は、当初 246 円とする。但し、行使価額は第 10 項に定める修正及び第 11 項に定める調整を受ける。

## 10. 行使価額の修正

(1) 本項第(2)号を条件に、行使価額は、各修正日（以下に定義する。）の前取引日（以下に定義する。）の東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の終値（同日に終値がない場合には、その直前の終値）の 92%に相当する金額の 1 円未満の端数を切り捨てた金額に修正される。但し、本新株予約権の行使が、東京証券取引所の有価証券上場規程施行規則第 436 条第 1 項に定義する制限超過行使に該当する場合であって、上記計算によると当該行使に係る行使価額が 2026 年 1 月 16 日の東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の終値（本新株予約権の発行後に当社普通株式の株式分割等が行われた場合は、同額に株式分割等の比率を乗じて調整する。）（以下「**発行決議日終値**」という。）を下回ることとなる場合、当該行使に係る行使価額は発行決議日終値と同額に修正される。

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

「取引日」とは、東京証券取引所において売買立会が行われる日をいう。但し、東京証券取引所において当社普通株式に関して何らかの種類の取引停止処分又は取引制限（一時的な取引制限も含む。）があった場合には、当該日は「取引日」にあたらぬものとする。

「修正日」とは、各行使価額の修正につき、第16項第(1)号に定める本新株予約権の各行使請求に係る通知を当社が受領した日（但し、最初に当該通知を受領した日を除く。）をいう。

(2) 行使価額は134円（但し、第11項の規定に準じて調整を受ける。その場合、第11項にて「行使価額」とあるのは「下限行使価額」と読み替える。）（以下「**下限行使価額**」という。）を下回らないものとする。本項第(1)号に基づく計算によると修正後の行使価額が下限行使価額を下回る場合、修正後の行使価額は下限行使価額とする。

## 11. 行使価額の調整

(1) 当社は、本新株予約権の発行後、下記第(2)号に掲げる各事由により当社の発行済普通株式の総数に変更が生じる場合又は変更が生じる可能性がある場合には、次に定める算式（以下「**新株発行等による行使価額調整式**」という。）をもって行使価額を調整する。

$$\begin{array}{ccccccc} & & & \text{既発行} & & \text{新発行・処} & & \text{1株当たりの} \\ & & & \text{株式数} & + & \text{分株式数} & \times & \text{払込金額} \\ & & & & & & & \text{1株当たりの時価} \\ \text{調整後} & = & \text{調整前} & \times & \frac{\text{既発行株式数} + \text{新発行・処分株式数}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行・処分株式数}} \end{array}$$

(2) 新株発行等による行使価額調整式により行使価額の調整を行う場合及び調整後行使価額の適用時期については、次に定めるところによる。

①下記第(5)号②に定める時価を下回る払込金額をもって当社普通株式を新たに発行し、又は当社の保有する当社普通株式を処分する場合（無償割当てによる場合を含む。）（但し、当社の役員及び従業員並びに当社子会社の役員及び従業員を対象とする譲渡制限付株式報酬として株式を発行又は処分する場合、新株予約権（新株予約権付社債に付されたものを含む。）の行使、取得請求権付株式又は取得条項付株式の取得、その他当社普通株式の交付を請求できる権利の行使によって当社普通株式を交付する場合、及び会社分割、株式交換、株式交付又は合併により当社普通株式を交付する場合を除く。）

調整後行使価額は、払込期日（募集に際して払込期間を定めた場合はその最終日とし、無償割当ての場合はその効力発生日とする。）以降、又はかかる発行若しくは処分につき株主に割当てを受ける権利を与えるための基準日がある場合はその日の翌日以降これを適用する。

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

## ②株式の分割により普通株式を発行する場合

調整後行使価額は、株式の分割のための基準日の翌日以降これを適用する。なお、新株発行等による行使価額調整式で使用する新発行・処分株式数は、株式の分割により増加する当社の普通株式数をいうものとする。

③下記第(5)号②に定める時価を下回る払込金額をもって当社普通株式を交付する定めのある取得請求権付株式又は下記第(5)号②に定める時価を下回る払込金額をもって当社普通株式の交付を請求できる新株予約権（新株予約権付社債に付されたものを含む。）を発行又は付与する場合（但し、当社の役員及び従業員並びに当社子会社の役員及び従業員を対象とするストック・オプションを発行する場合を除く。）

調整後行使価額は、取得請求権付株式の全部に係る取得請求権又は新株予約権の全部が当初の条件で行使されたものとみなして新株発行等による行使価額調整式を適用して算出するものとし、払込期日（新株予約権の場合は割当日）以降又は（無償割当ての場合は）効力発生日以降これを適用する。但し、株主に割当てを受ける権利を与えるための基準日がある場合には、その日の翌日以降これを適用する。

④当社の発行した取得条項付株式又は取得条項付新株予約権（新株予約権付社債に付されたものを含む。）の取得と引換えに下記第(5)号②に定める時価を下回る価額をもって当社普通株式を交付する場合

調整後行使価額は、取得日の翌日以降これを適用する。

上記にかかわらず、当該取得条項付株式又は取得条項付新株予約権（新株予約権付社債に付されたものを含む。）に関して、当該調整前に本号③による行使価額の調整が行われている場合には、調整後行使価額は、当該調整を考慮して算出するものとする。

⑤本号①乃至③の場合において、基準日が設定され、かつ、効力の発生が当該基準日以降の株主総会、取締役会その他当社の機関の承認を条件としているときには、本号①乃至③にかかわらず、調整後行使価額は、当該承認があった日の翌日以降これを適用する。この場合において、当該基準日の翌日から当該承認があった日までに本新株予約権の行使請求をした本新株予約権者に対しては、次の算出方法により、当社普通株式を追加的に交付する。

$$\text{株式数} = \frac{\left( \begin{array}{cc} \text{調整前} & \text{調整後} \\ \text{行使価額} & \text{行使価額} \end{array} \right) \times \text{調整前行使価額により}}{\text{調整後行使価額}} \times \text{当該期間内に交付された株式数}$$

この場合、1株未満の端数を生じたときはこれを切り捨てるものとする。

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

- (3) ① 当社は、本新株予約権の発行後、本号②に定める配当を実施する場合には、次に定める算式（以下「**配当による行使価額調整式**」といい、新株発行等による行使価額調整式と併せて「**行使価額調整式**」という。）をもって行使価額を調整する。

$$\begin{array}{ccccc} \text{調整後行使} & & & & \text{時価－1株当たりの配当} \\ \text{価額} & = & \text{調整前行使価額} & \times & \hline & & & & \text{時価} \end{array}$$

②「1株当たりの配当」とは、第12項記載の本新株予約権を行使することができる期間の末日までの間に到来する配当に係る各基準日につき、当社普通株式1株当たりの剰余金の配当（会社法第455条第2項及び第456条の規定により支払う金銭も含む。金銭以外の財産を配当財産とする剰余金の配当の場合には、かかる配当財産の簿価を配当の額とする。）の額をいう。1株当たりの配当の計算については、円位未満小数第2位まで算出し、小数第2位を四捨五入する。

- ③ 配当による行使価額の調整は、当該配当に係る基準日に係る会社法第454条又は第459条に定める剰余金の配当決議が行われた日から5取引日目以降これを適用する。

- (4) 行使価額調整式により算出された調整後行使価額と調整前行使価額との差額が1円未満にとどまる場合は、行使価額の調整は行わない。但し、その後行使価額の調整を必要とする事由が発生し、行使価額を調整する場合には、行使価額調整式中の調整前行使価額に代えて調整前行使価額からこの差額を差し引いた額を使用する。

- (5) ①行使価額調整式の計算については、円位未満小数第2位まで算出し、小数第2位を四捨五入する。

②行使価額調整式で使用する時価は、新株発行等による行使価額調整式の場合は調整後行使価額が初めて適用される日（但し、本項第(2)号⑤の場合は基準日）又は配当による行使価額調整式の場合は当該配当に係る基準日に先立つ45取引日目に始まる30連続取引日の東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の終値の平均値（終値のない日数を除く。）とする。この場合、平均値の計算は、円位未満小数第2位まで算出し、小数第2位を四捨五入する。

③新株発行等による行使価額調整式で使用する既発行株式数は、株主に割当てを受ける権利を与えるための基準日がある場合はその日、また、かかる基準日がない場合は、調整後行使価額を初めて適用する日の1ヶ月前の日における当社の発行済普通株式の総数から、当該日において当社の保有する当社普通株式を控除した数とする。また、上記第(2)号②の場合には、新株発行等による行使価額調整式で使用する新発行・処分株式数は、基準日において当社が有する当社普通株式に割り当てられる当社の普通株式数を含まないものとする。

- (6) 上記第(2)号及び第(3)号の行使価額の調整を必要とする場合以外にも、次に掲げる場合には、当社は、本新株予約権者と協議のうえ、その承認を得て、必要な行使価額の調整を行う。

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

①株式の併合、会社分割、株式交換、株式交付又は合併のために行使価額の調整を必要とするとき。

②その他当社の普通株式数の変更又は変更の可能性が生じる事由の発生により行使価額の調整を必要とするとき。

③行使価額を調整すべき複数の事由が相接して発生し、一方の事由に基づく調整後の行使価額の算出にあたり使用すべき時価につき、他方の事由による影響を考慮する必要があるとき。

(7) 行使価額の調整を行うとき（下限行使価額が調整されるときを含む。）は、当社は、調整後行使価額の適用開始日の前日までに、本新株予約権者に対し、かかる調整を行う旨及びその事由、調整前行使価額、調整後行使価額（調整後の下限行使価額を含む。）並びにその適用開始日その他必要な事項を書面で通知する。但し、上記第(2)号⑤に定める場合その他適用開始日の前日までに上記通知を行うことができない場合には、適用開始日以降速やかにこれを行う。

## 12. 本新株予約権を行使することができる期間

2026年2月3日から2028年2月2日までとする。

## 13. その他の本新株予約権の行使の条件

各本新株予約権の一部行使はできない。

## 14. 本新株予約権の取得

(1) 当社は、本新株予約権の取得が必要と当社取締役会が決議した場合は、本新株予約権の払込期日の翌日以降、会社法第273条及び第274条の規定に従って15取引日前までに通知をしたうえで、当社取締役会で定める取得日に、本新株予約権1個当たりその払込金額と同額で、本新株予約権者（当社を除く。）の保有する本新株予約権の全部又は一部を取得することができる。一部取得をする場合には、抽選その他の合理的な方法により行うものとする。本発行要項の他のいかなる規定にもかかわらず、当社による本新株予約権者に対する本新株予約権の取得の通知は、かかる取得に関して本新株予約権者が得たいかなる情報も、金融商品取引法第166条第2項に定める未公表の重要事実を構成しないよう、当社が当該取得について開示をしない限り効力を有しないものとする。

(2) 当社は、当社が合併（合併により当社が消滅する場合に限る。）をする場合、株式交換、株式交付若しくは株式移転により他の会社の完全子会社となることにつき株主総会で承認決議した場合又は東京証券取引所において当社の普通株式の上場廃止が決定された場合、会社法第273条の規定に従って15取引日前までに通知をしたうえで、当社取締役会で定める取得日に、本新株予約権1個当たりその払込金額と同額で、本新株予約権者（当社を除く。）の保有する本新株予約権の全部を取得する。本発行要項の他のいかなる規定にもかかわらず、

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

当社による本新株予約権者に対する本新株予約権の取得の通知は、かかる取得に関して本新株予約権者が得たいかなる情報も、金融商品取引法第 166 条第 2 項に定める未公表の重要事実を構成しないよう、当社が当該取得について開示をしない限り効力を有しないものとする。

(3) 当社は、第 12 項記載の本新株予約権を行使することができる期間の末日（休業日である場合には、その直前営業日とする。）に、本新株予約権 1 個当たり払込金額と同額で、本新株予約権者（当社を除く。）の保有する本新株予約権の全部を取得する。

#### **15. 本新株予約権の行使により株式を発行する場合の増加する資本金及び資本準備金**

本新株予約権の行使により株式を発行する場合の増加する資本金の額は、会社計算規則第 17 条の定めるところに従って算定された資本金等増加限度額に 0.5 を乗じた金額とし、計算の結果 1 円未満の端数を生じる場合はその端数を切り上げた額とする。増加する資本準備金の額は、資本金等増加限度額より増加する資本金の額を減じた額とする。

#### **16. 本新株予約権の行使請求の方法**

(1) 本新株予約権を行使する場合、第 12 項記載の本新株予約権を行使することができる期間中に第 19 項記載の行使請求受付場所に対し、行使請求に必要な事項を通知するものとする。

(2) 本新株予約権を行使する場合、前号の行使請求の通知に加えて、本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の全額を、現金にて第 20 項に定める払込取扱場所の当社が指定する口座に振り込むものとする。

(3) 本新株予約権の行使請求は、第 19 項記載の行使請求受付場所に対する行使請求に必要な全部の事項の通知が行われ、かつ当該本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の全額が前号に定める口座に入金された日に効力が発生する。

#### **17. 新株予約権証券の不発行**

当社は、本新株予約権に関して、新株予約権証券を発行しない。

#### **18. 本新株予約権の払込金額及びその行使に際して出資される財産の価額の算定理由**

本発行要項及び割当予定先との間で締結される買取契約に定められた諸条件を考慮し、一般的な価格算定モデルであるモンテカルロ・シミュレーションを基礎として、当社の株価、当社普通株式の流動性及び株価変動性（ボラティリティ）、当社に付与されたコール・オプション、割当予定先の権利行使行動及び割当予定先の株式保有動向等について一定の前提を置いて第三者算定機関が評価した結果を参考に、本新株予約権 1 個の払込金額を第 8 項に記載の通りとした。さらに、本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は第 9 項に記載のとおりとした。

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。

## 19. 行使請求受付場所

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

## 20. 払込取扱場所

株式会社みずほ銀行 築地支店

## 21. 社債、株式等の振替に関する法律の適用等

本新株予約権は、社債、株式等の振替に関する法律に定める振替新株予約権とし、その全部について同法の規定の適用を受ける。また、本新株予約権の取扱いについては、株式会社証券保管振替機構の定める株式等の振替に関する業務規程、同施行規則その他の規則に従う。

## 22. 振替機関の名称及び住所

株式会社証券保管振替機構  
東京都中央区日本橋兜町7番1号

## 23. その他

- (1) 上記各項については、金融商品取引法による届出の効力発生を条件とする。
- (2) その他本新株予約権発行に関し必要な事項は、当社代表取締役社長に一任する。

以上

ご注意：この文書は、当社の新株予約権の発行に関して一般に公表するためのものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為のために作成されたものではありません。